



代替エネルギーの風で織るタオル

「風で織ったタオル」(池内タオル)も、機能を売る(日本海ガス)のも地球にやさしい

もう一つの環境への取り組みは、積極的に作り出すものです。エコ製品を作ろうとか、エコビジネスを興そうという動きです。

たとえば「今ある製品を置き替える」という意味でのエコ製品があります。

今よりも少ない原料で作る、今と違うエネルギーで作るなどです。

ペットボトルをリサイクルした再生樹脂で作った文房具や家具など、この分野の商品開発や販売を進めている企業はたくさんあります。その分、新しい石油を掘って作るプラスチックを使わなくて済みます。または、作り方や

ラッシュを減らして、同じ量のものをでも少ない資源で作れるようにするなどの取り組みもあります。

また、作る過程に注目して、今より少ないエネルギーで作る、もしくは代替エネルギーを使う取り組みを進めている企業もあります。

愛媛県今治市に「風で織るタオル」を作っている会社があります。今治はタオルの産地ですが、そこにある池内タオルでは、風力でタオルを作っています。

日本自然エネルギーのグリーン電力証書の仕組みを使うことで、工場で使っている電力はすべて風力発電なのです。すると「風で織ったタオル」という呼び方ができます。日本に先じて、アメリカなどの海外で高く評価されているそうです。

モノではなく機能を売る発想

また、「モノを機能・サービスで置き替える」取り組みを進めている企業もあります。こうすることで、モノの生産に必要な資源やエネルギーを減らしていくことができます。この分野に関しては、特に日本企業が世界の中で進んだ取り組みを展開しています。

客さんは別にファンヒーターそのものが欲しいのではなく、ファンヒーターの作り出してくれる「暖かさ」が欲しい。一年の四分の三の季節はじやまになるファンヒーターというモノではなくて、その「暖かさ」だけ買えたらいい。

富山県富山市の都市ガス会社、日本海ガスでは、ガスレンジやガスファンヒーターなどのガスを使う器具類も完備していますが、二年前から「ファンヒーターではなく、冬のあいたの暖かさだけを売る」ことを始めました。

冬のはじめにレンタルして、春にならなくなったら引き取ります。専門家がちゃんとメンテナンスして保管するので持ち帰るとのこと。開始した年、用意した百五十台はすぐに予約でいっぱいになりました。お客さんはひと冬三千円で、寒い間じゅうファンヒーターが使える。春になったら引き取ってくれるので部屋が狭くならない。会社も何年もレンタルできるの、三千円でも損はしないし、お客様にも喜んでもらえる。それだけファンヒーターを保持して使うことになりましたから、作るための資源やエネルギー、使えなくなったストロブというゴミも減